



StarSuite™ Configuration Manager Version 1

インストールと使用法

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054,
U.S.A. 650-960-1300

Part No. 817-1825-10
February 2003, Revision A

著作権と商標について

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. has intellectual property rights relating to technology embodied in the product that is described in this document. In particular, and without limitation, these intellectual property rights may include one or more of the U.S. patents listed at <http://www.sun.com/patents> and one or more additional patents or pending patent applications in the U.S. and in other countries.

This document and the product to which it pertains are distributed under licenses restricting their use, copying, distribution, and decompilation. No part of the product or of this document may be reproduced in any form by any means without prior written authorization of Sun and its licensors, if any.

Third-party software, including font technology, is copyrighted and licensed from Sun suppliers.

This product is based in part on the work of the Independent JPEG Group and The FreeType Project.

Portions Copyright 2000 SuSE, Inc. Word for Word Copyright © 1996 Inso Corp. International CorrectSpelling correction system Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo, Java, Solaris, StarSuite, the Butterfly logo, the Solaris logo, and the StarSuite logo are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

UNIX is a registered trademark in the U.S. and in other countries, exclusively licensed through X/Open Company, Ltd. Screen Beans and Screen Beans clipart characters are registered trademarks of A Bit Better Corporation.

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS" AND ALL EXPRESS OR IMPLIED CONDITIONS, REPRESENTATIONS AND WARRANTIES, INCLUDING ANY IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NON-INFRINGEMENT, ARE DISCLAIMED, EXCEPT TO THE EXTENT THAT SUCH DISCLAIMERS ARE HELD TO BE LEGALLY INVALID.

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. (以降「サン・マイクロシステムズ株式会社」または「サン」とします)は、本書で説明している製品に取り入れられている技術に関する知的所有権を有しています。これらの知的所有権には、特に、<http://www.sun.com/patents>に記載されている1つまたは複数の米国特許権、ならびに米国およびその他の国における1つまたは複数のその他の特許権または出願中の特許申請が含まれていることがあります。これらに限定されません。

本製品およびそれに関連する文書は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することを禁じます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品は、Independent JPEG Group、FreeType Project、およびCatharon Typography Projectの作業に一部依存しています。

Portions Copyright 2000 SuSE, Inc., Word for Word Copyright © 1996 Inso Corp., International CorrectSpell spelling correction system Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

本製品の一部は、Independent JPEG Group、FreeType Project、およびCatharon Typography Projectの作業に基づいています。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、Solaris、StarSuite、蝶のロゴマーク、Solarisのロゴマーク、およびStarSuiteのロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標もしくは登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd.が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。Screen Beans および Screen Beans のクリップアート キャラクターは、A Bit Better Corporationの登録商標です。

International CorrectSpell Swedish, Russian, Norwegian, English, Dutch, and Danish correction systems Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Spanish and French correction systems Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from word list supplied by Librairie Larousse. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Australian English correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Based upon The Macquarie Dictionary, Second Revised Edition Copyright (c) Macquarie University NSW. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Catalan correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from Catalan word list Copyright (c) 1992 Universitat de Barcelona. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Czech correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from word list supplied by Jan Hajic. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Finnish correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from word list supplied by University of Helsinki Institute for Finnish Language and Dr. Kolbjorn Heggstad. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell German correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from word list supplied by Langenscheidt K.G. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Italian correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Adapted from word list supplied by Zanichelli S.p.A. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

International CorrectSpell Portuguese correction system Copyright (c) 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved. Portions adapted from the Dicionario Academico da Lingua Portuguesa Copyright (c) 1992 by Porto Editora. この製品に含まれるアルゴリズムまたはデータベースの再生または逆アセンブリは禁止されています。

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含む、明示的ないし黙示的ななんらの保証も行われぬものとします。ただし、これが法に触れる場合は、この限りではありません。

目次

1	はじめに	5
	この文書で使用されるマークについて	5
2	概念	7
3	導入	9
	導入ツール	9
	テンプレートのインストール	9
	LDAP サーバースキーマの拡張	9
	組織マッピングの定義	10
	ユーザープロファイルマッピングの定義	11
	LDAP サーバーの導入	11
	StarSuite の基本設定の有効化	13
	LDAP 関連の設定	13
	アクセス権の設定	14
	認証方式の設定	15
	Sun ONE Directory Server プラグイン	15
	Sun ONE Directory Server プラグインの読み込み手順	16
	基本設定用のレスポンスファイル	18
4	インストール	23
	一般的なインストールのヒント	23
	必要な知識と推奨事項	23
	システム要件	23
	インストール CD の内容	24
	CD からインストールするための準備	24
	インストール要件	25
	LDAP サーバーの要件	25
	アプリケーションサーバーの要件	25
	ブラウザの要件	25
	Kerberos	25
	RedHat Linux 8	25
	インストールの開始	26
	UNIX での CD からのインストール	26
	Windows での CD からのインストール	26
	セットアップ手順	27
	ようこそ	27
	重要な注意事項	27

ライセンス許諾書	27
Web サーバー	27
Java™ 設定ダイアログ	28
LDAP ディレクトリサーバー	29
ファイルのコピー	30
インストールの終了	30
5 使用法	31
ログイン	31
ユーザーインターフェース	32
ナビゲーション区画	32
階層における関連性	32
識別ナビゲーション	34
役割優先度の変更	35
検索	35
コンテンツ区画	36
コンテンツ区画でのナビゲーション	37
ロケールの変更	37
お気に入りの設定	37
「全般」タブページ	38
項目またはプロパティでのアクションの実行	41
項目の追加	41
項目の削除	42
その他のタブページ	42
ログアウト	46
ヘルプ	47

第 1 章

はじめに

この文書で使用されるマークについて

このマニュアルでは、3種類のマークを使用して役立つ情報を示します。



「重要」マークは、データやシステムのセキュリティに関する重要な情報を表します。



「メモ」マークは、追加情報を表します。ある目的を達成するための別の方法を示します。



「ヒント」マークは、より効率的な方法でプログラムを実行するための説明を表します。

第 2 章

概念

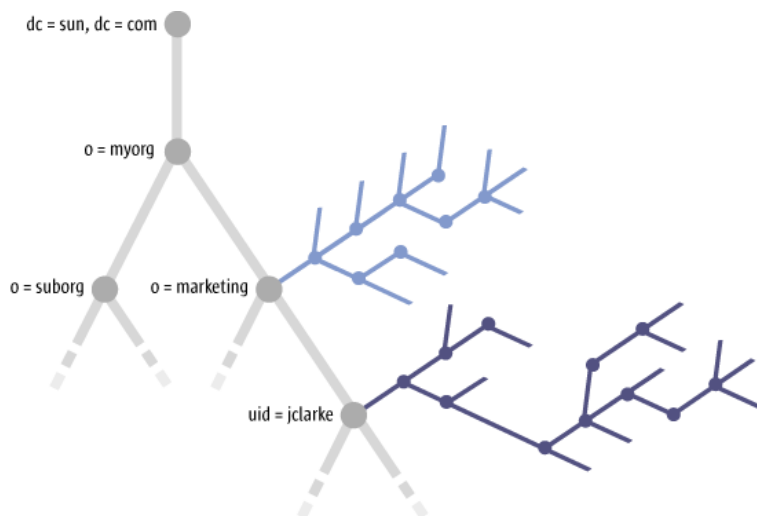
StarSuite™ Configuration Manager では、LDAP ディレクトリを使用して、組織の StarSuite Enterprise の設定を表示または変更することができます。このため、各マシン上で設定をローカルに管理する必要がありません。SCM (StarSuite Configuration Manager) を使用する上で設定データの構成方法を知ることは非常に重要です。

設定データは、2 つの構造から成ります。

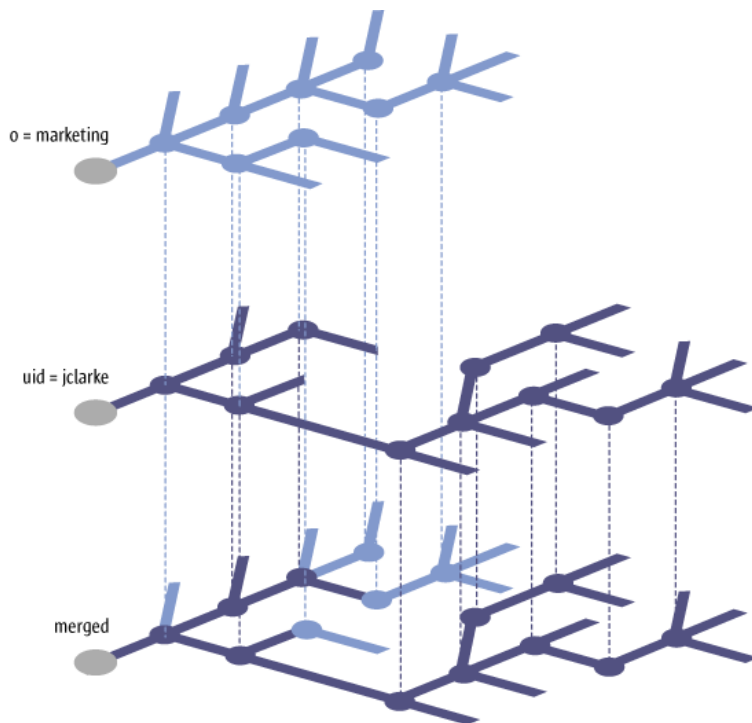
1 つめの構造は LDAP 構造で (通常、すでに存在しています)、組織、役割、ユーザーなどのエンティティから成る、企業の内部を反映する組織的構造です。

2 つめの構造は StarSuite の設定構造で、構成設定を含む要素から成ります。最上位レベルでは、要素はコンポーネントにまとめられています。各コンポーネントは特定のアプリケーションに対応する要素 (StarWriter 関連の設定など) を表します。要素は、ツリー構造で階層的に編成され、特定の構成設定がパスで示されます。

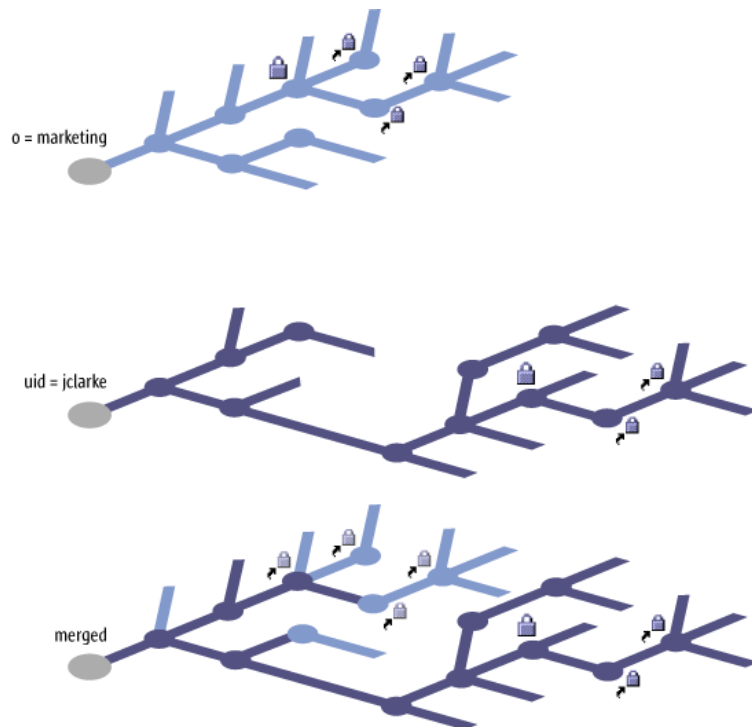
StarSuite の設定データは、LDAP 構造にシームレスに統合されるため、既存の LDAP 構造を再利用することにより、セキュリティとデータの階層的な管理が容易になります。これは、初期の設定構造 (ルートレイヤーまたはデフォルトレイヤーと呼ばれる) をいったん挿入し、このデフォルトレイヤーでのエンティティ固有の変更を、LDAP ツリーのどの LDAP エンティティにも保存できるようにすることで実現しています。この StarSuite の設定ツリーは LDAP エンティティに接続されるため、「(StarSuite の設定の) ツリーを含む (LDAP) ツリー」が作成されます。



ある LDAP エンティティに対する実質的に有効な StarSuite 設定は、ルートレイヤーから始まる LDAP 階層をたどって、対象の LDAP エンティティに至るまでの設定レイヤーをすべて統合することで得られます。ある LDAP エンティティ (例、o=marketing と定義される組織) に関連付けられたレイヤー中で発生した StarSuite の設定変更は、後続のレイヤーで別の指定がない限り、その組織に属する LDAP エンティティ (例、uid= jclarke と定義されるユーザー) に関連付けられているすべての StarSuite の設定レイヤーに継承されます。



このメカニズムは、純粋な設定データだけでなく、セキュリティ特性にもあてはまります。つまり、**o=marketing** のレイヤー内の構成設定の1つに「保護」のセキュリティ属性を指定すると、すべての下位レイヤーでこの設定が読み取り専用となります。さらにその保護特性は、この保護された設定より下位にあるすべての **StarSuite** 設定データに継承されます。このようにして保護された設定より下位にあるすべての **StarSuite** の構成設定は保護され、下位レイヤーのすべての設定が読み取り専用となります。



StarSuite Configuration Manager は組織の組織階層を横断して、すべての LDAP エンティティに関連する構成設定を表示し、設定することができます。

導入

導入ツール

StarSuite Configuration Manager は WebServer 技術を使用しているため、WebServer 環境で導入する必要があります。Tomcat WebServer は、StarSuite Configuration Manager インストールキットに含まれています。

導入ツールは、StarSuite のテンプレートインストールに含まれるすべての設定データを、使用可能な LDAP サーバー上に導入するために使用します。

テンプレートのインストール

テンプレートのインストールは、通常、すべてのモジュール (Writer や Calc など) と利用可能なすべてのロケールを含む製品の標準インストールになります。導入を行う際に利用可能なすべてのコンポーネントを適切に初期化するには、テンプレートのインストールに留意する必要があります。

LDAP サーバースキーマの拡張

- Netscape v4.x サーバーの場合、oo-common.conf ファイルをサーバーの設定ディレクトリ (<install>/slapd-<server name>/config) にコピーし、このファイルを含む記述を slapd.ldbm.conf ファイルに 1 行追加します。その後、サーバーを再起動します。
- iPlanet v5.x サーバーの場合、oo-common.ldif ファイルをサーバーのスキーマディレクトリ (<install>/slapd-<server name>/config/schema) にコピーし、XY<name>.ldif 形式の名前に変更する必要があります。XY には 50 を超える 2 桁の数字 (ユーザー定義スキーマの拡張には、99 を使用することを推奨) を使用するようにしてください。その後、サーバーを再起動します。
- ActiveDirectory サーバーの場合、まず次の点を確認する必要があります。
 - ログインするユーザーが、スキーマを変更するのに十分な権利を持っていること。つまり、ユーザーは Schema Administrators グループに属しているか、またはスキーマを更新する権限が委任されている必要があります。
 - スキーママスターが書き込み可能であること。Windows 2000 ドメインコントローラ (DC) では、スキーマの変更はデフォルトで無効になっています。指定の DC でスキーマの変更を可能にするには、HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\NTDS\Parameters に REG_DWORD 型のレジストリ値 SchemaUpdateAllowed が存在し、その値がゼロ以外になっている必要があります。

スキーマを拡張するには、下記のコマンドを実行する必要があります。

```
ldifde -i -v -f oo-common-ad.ldf -c "DC=sun, DC=com" <baseDN>
```

ここで <baseDN> は、ActiveDirectory のベース DN に置き換える必要があります。



ldifde は、Windows 2000 リソースキットの一部として提供されるコマンド行ユーティリティです。

役割に使われる Active Directory のオブジェクトクラス (デフォルトでは、group) は、補助オブジェクトクラスとして oo-prioritised-role オブジェクトクラスが使えるように変更する必要があります。

組織マッピングの定義

組織マッピングの定義は、デフォルトの組織マッピングを含むメタ設定ファイルを編集することにより行います。

デフォルトのインストールで提供される、デフォルトの組織データマッピング (コメント付き) を以下に示します。

```
# ユーザーエンティティのマッピング
## ユーザーエンティティの識別に使用されるオブジェクトクラス
User/ObjectClass=inetorgperson
## ユーザーエンティティに使用されるネーミング属性
User/NamingAttribute=uid
## ある組織下のすべてのユーザーエンティティが格納される
## オプションコンテナ
User/Container=ou=People
## ユーザー名を読む形式で表示するために外部アプリケーションが使用する
## 情報 (たとえば、"LastName, FirstName")
User/DisplayNameFormat=sn, givenname
# 役割エンティティのマッピング
## 静的役割のマッピング
### 静的役割の識別に使用されるオブジェクトクラス (セミコロンで区切って
### リスト)
Role/Static/ObjectClass=groupofuniquenames
### 静的役割用に使用される対応ネーミング属性 (上のリストの順に指定)
Role/Static/NamingAttribute=cn
### メンバーのリストを含む静的役割エントリの
###属性
Role/Static/UserAttribute=uniquemember
## 動的役割のマッピング
### 動的役割を識別するのに使用されるオブジェクトクラス (セミコロンで
### 区切ってリスト)
Role/Dynamic/ObjectClass=groupofuniquenames
### 動的役割用に使用される対応ネーミング属性 (上のリストの順に指定)
Role/Dynamic/NamingAttribute=cn
### メンバーであるところの役割のリストを格納するユーザーエンティティに
### 使用される属性
Role/Dynamic/UserAttribute=memberof
## ある組織下のすべての役割が格納されるオプションコンテナ
Role/Container=ou=Groups
# 組織エンティティマッピング
### 組織を識別するのに使用されるオブジェクトクラス (セミコロンで
### 区切ってリスト)
Organisation/ObjectClass=organization
### 組織に使用される対応ネーミング属性 (上のリストの順に指定)
Organisation/NamingAttribute=o
```

ユーザープロファイルマッピングの定義

ユーザープロファイルマッピングの定義は、デフォルトのユーザープロファイルマッピングを含むメタ設定ファイルを編集することにより行います。

ファイルの各行の書式は

<User Profile Attribute>=<LDAP Attribute 1>;<LDAP Attribute 2>;...;<LDAP Attribute N> となります。

ユーザープロファイルの属性のリストは修正できませんが、対応する LDAP 属性のリストを編集すれば、ユーザーエンティティ内で使用される属性を変更して個人データを保持することができます。LDAP 属性は、リスト内の順番に従って照会されます。たとえば、**<LDAP Attribute N>** の前に指定されているすべての LDAP 属性にデータが含まれていない場合、**<User Profile Attribute>** には **<LDAP Attribute N>** のコンテンツが使用されます。

LDAP サーバーの導入

UNIX でスクリプトを実行するには、導入ツールの製品ディレクトリで `./deploy-reg.sh` と入力します。Windows でスクリプトを実行するには、標準の DOS プロンプトを使用して (ほかのプロンプトではスクリプトは正しく実行されない可能性があります)、導入ツールの製品ディレクトリで `deploy-reg.bat` を実行します。

コマンド構文は、次のとおりです。

```
deploy-reg <SO installation path> [-host <host>] [-port <port>] [-login <login>] [-dn <dn>] [-serviceentry <serviceEntry>]
```

記号の意味は、下記のとおりです。

- **<SO installation path>** は、テンプレートインストールの階層パスを示します。
- **<host>** は、LDAP サーバーのホスト名を示します (デフォルトは `localhost`)。
- **<port>** は、LDAP サーバーのポート番号を示します (デフォルトは `389`)。
- **<login>** は、LDAP サーバーへの接続に使われる DN を示します (デフォルトは `cn=Directory Manager`)。指定する DN はベース DN への書き込みアクセス権を持っている必要があります。
- **<dn>** は、エントリが追加されるベース DN を示します (デフォルトは `dc=sun,dc=com`)。
- **<serviceEntry>** は、製品データを保持するためにベース DN 下に作成されるエントリの名前を示します (デフォルトは `OfficeRegistry`)。実際に作成されるエントリの DN は、`cn=<serviceEntry>` になります。

このコマンドにより、テンプレートのインストールに含まれるすべてのデータが配備されます。つまり、「スキーマ」と「データ」の 2 つのエントリが指定したサービスエントリの下に作成されます。各コンポーネントについては、これらのエントリの下に設定データを格納するためのサブエントリが追加されます。コンポーネントのサブエントリの下には、各言語に翻訳された記述とデフォルトデータを保持するサブエントリが、サポートするロケールごとに追加されます。

リポジトリに作成されるエントリは、以下の通りです (すべてのパラメータにデフォルト値を使用し、1 つの `org.openoffice.Component` コンポーネントと、`en-US` と `de` の 2 つのロケールを想定しています)。

- `cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`
- `cn=schema,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`
- `cn=data,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`
- `cn=org.openoffice.Component,cn=schema,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`
- `cn=org.openoffice.Component,cn=data,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`
- `cn=de,cn=org.openoffice.Component,cn=data,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com`

- **cn=de,cn=org.openoffice.Component,cn=schema,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com**
- **cn=en-US,cn=org.openoffice.Component,cn=data,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com**
- **cn=en-US,cn=org.openoffice.Component,cn=schema,cn=OfficeRegistry,dc=sun,dc=com**

コマンド行でいくつかのパラメータを省略すると、そのパラメータの入力を求めるプロンプトが自動的に表示されます。**Enter** キーを押してデフォルト値を使用するか、値を指定して **Enter** キーを押します。たとえば、次のようになります。

```
> deploy.sh
Hostname [localhost] ? <enter>
Port [389] ? <enter>
BaseDn [dc=sun,dc=com] ? <enter>
LoginName [cn=Directory Manager] ? <enter>
ServiceEntry [OfficeRegistry] ? <enter>
```

これにより LDAP サーバー「localhost:389」にサービスエントリ「OfficeRegistry」が、ベース DN「dc=sun,dc=com」の下にログイン名「cn=Directory Manager」で作成されます。LDAP サーバーへの接続にはパスワードの提示が要求されます。次のような質問が表示されます。

```
> deploy.sh
Hostname [localhost] ?
Port [389] ?
BaseDn [dc=sun,dc=com] ?
LoginName [cn=Directory Manager] ?
ServiceEntry [OfficeRegistry] ?
LDAP Access Password:
```

認証結果が正しければ、次の手順で導入が開始されます。

- サービスエントリを作成します (デフォルトは **cn=OfficeRegistry**)。
- メタ設定ファイルの内容を保持するサービスエントリに属性を追加します。
 - ▷ ユーザープロファイルマッピング: **oo-ldap-attr-map.properties**
 - ▷ 組織マッピング: **oo-org-map.properties**
- サービスエントリに、サブエントリを 2 つ追加します。
 - ▷ **cn=schema**: 設定スキーマを含む
 - ▷ **cn=data**: 設定のデフォルトデータを含む
- テンプレートのインストールに含まれる各コンポーネントについては、これら両方のサブエントリの下にサブエントリを 1 つ追加します。
- 利用可能な各ロケールについて、コンポーネントのエントリの下に各ロケールを示すエントリを追加します。
- テンプレートのインストールに含まれる各コンポーネントについては、コンポーネントのスキーマ、デフォルトデータ、各言語に翻訳された記述、および各言語対応にされたデフォルトデータを示す (エントリによる) ファイルの内容に合わせて、各エントリの共通属性の値を設定します。

何らかの理由で一部のデータがすでに存在する場合、既存値を置き換えるオプションが導入ツールにより表示されます。選択肢は次の通りです。

- Y → はい (既存値を置き換えて進みます)
- N → いいえ (既存値を置き換えず、導入を中止します)
- A → すべて置き換える (この既存値を含む以降すべての既存値を置き換えます)

このスクリプトは、インストール内の設定ファイルを自動的に検索します。検索は、`<install path>/share/registry` から開始され、スキーマ、デフォルトデータ、各言語対応されたデータをそれぞれ保持するサブディレクトリ、`schema`、`data`、および `res` に対して行われます。

StarSuite の基本設定の有効化

この新しい機能は、StarSuite の初期の導入には影響しません。StarSuite Configuration Manager のインストール中に、基本設定にアクセスするように StarSuite を設定することはできません。通常、StarSuite の基本設定へのアクセスは、StarSuite のネットワークインストールを担当する管理者が有効にします。管理者は、企業 LDAP ディレクトリサーバーに StarSuite の設定データを保存できるように準備し、共有設定データを導入する必要があります。管理者が設定のバックエンドを準備した後、StarSuite のネットワークインストールでいくつかのブートストラップ設定を調整する必要があります。

LDAP 関連の設定

設定データへのアクセスを担当するコンポーネントを「設定プロバイダー」と呼びます。このコンポーネントは起動時に、その設定を Windows プラットフォーム上の `configmgr.ini` ファイルまたは UNIX プラットフォーム上の `configmgrc` ファイルから検索します。このファイルは、ネットワークインストールのプログラムディレクトリにあります。基本設定へのアクセスを有効にするには、管理者は次の設定を変更または追加する必要があります。

- **CFG_BackendService:** 設定アクセス用のサービス名を指定します。
`com.sun.star.configuration.backend.LdapSingleBackend` と設定します。
- **CFG_BackendWrapper:** 設定データへのオフラインアクセスを有効にするためのサービス名を指定します。
`com.sun.star.configuration.backend.OfflineBackend` (オフラインキャッシュを使用する場合) または `com.sun.star.configuration.backend.OnlineBackend` (LDAP ストレージに直接アクセスする場合) と設定します。
- **CFG_OfflineDataUrl:** オフラインキャッシュ用の場所を指定します。推奨する場所は `${BootstrapFile:UserInstallation}/user/registry/offline` です。
- **CFG_LdapServerName:** LDAP ディレクトリサーバーのホスト名を指定します。
- **CFG_LdapPortNumber:** LDAP ディレクトリサーバーのポート番号を指定します。通常、**389** です。
- **CFG_LdapBaseDn:** 企業ディレクトリのルートエントリの場所を指定します。
- **CFG_LdapServiceDn:** LDAP ディレクトリに格納される StarSuite 共有設定の場所を指定します。格納場所はベース DN への相対パスとして指定する必要があります。デフォルトは、`OfficeRegistry` です。
- **CFG_LdapAnonymousUser:** リポジトリへの読み取り専用のアクセス権を持つ既存ユーザーの DN。このエントリの指定は任意です。指定しない場合、デフォルトの匿名アクセスが使用されます。Active Directory の場合、デフォルトで匿名アクセスを提供しないため、リポジトリへの読み取りアクセス権を持つユーザーを指定する必要があります。
- **CFG_LdapAnonymousPassword:** 上記ユーザー用のパスワードを指定します。匿名アクセスを使用する場合は、指定は任意です。
- **CFG_LdapKerberosService:** LDAP サーバーへの接続に使用する Kerberos サービス名です。Kerberos サービス名は KDC で登録する必要があります (下記メモ参照)。サービス名の書式は、**ServiceName (Solaris および Linux)** または **ServiceClass (Windows)** のみで構成され、ホスト部分は省略されます。このエントリの指定は任意であり、Kerberos の認証にのみ使用されます。



LDAP の Kerberos サービス名は、KDC (鍵配布センター) で登録する必要があります。Kerberos サービス名を登録する手順は次のとおりです。

Solaris の場合

Kerberos サービス名は、**ServiceName/Hostname@REALM** の書式にする必要があります。記号の意味と手順は、以下のとおりです。

- **ServiceName** はサービスを特定するための一意の文字列です。
 - **Hostname** は LDAP サーバーホストの **FQDN** (完全修飾ドメイン名) です。
1. Kerberos **ServiceName** 主体を **KDC** に追加します。
 - LDAP サーバーが稼動しているマシンにログインします。
 - `kadmin` を実行します。
 - `addprinc -randkey host/Hostname@REALM` と入力します。
 - `addprinc -randkey ServiceName/Hostname@REALM` と入力します。
 2. LDAP サーバーのキーをホストのサービスキーテーブル (**keytab** ファイル) に追加します。
 - LDAP サーバーが稼動しているマシンにログインします。
 - `kadmin` を実行します。
 - `ktadd -k /etc/krb5.keytab host/Hostname@REALM ServiceName/Hostname@REALM` と入力します。

Windows 2000 の場合

サービス主体名 (SPN) を **Active Directory** に登録します。

SPN の書式は **ServiceClass/host** とする必要があります。 **ServiceClass** はサービスを識別する一意の文字列で、 **host** はサービスインスタンス用のホストコンピュータの **DNS** 名です。

Sun ONE ディレクトリサーバーを **LocalSystem** アカウントで実行している場合は、ローカルコンピュータのアカウント (ドメインコントローラ) に **SPN** を登録します。

Sun ONE ディレクトリサーバーをドメインユーザーアカウントで実行している場合、ドメインユーザーアカウントに **SPN** を登録します。

アクセス権の設定

認証されたユーザーが設定データを保存するためには、LDAP サーバー内の自分自身のエントリより下位にエントリを作成する権限が必要になります。デフォルトではこの権限は一般ユーザーには与えられません。ユーザーがこの権限を得るには、LDAP 管理者がユーザーのアクセス権を変更する必要があります。

Sun ONE サーバー **5.x** の場合、これはリポジトリのベース DN に追加される以下の **ACI** によって行われます。

```
(targetattr="*)(target = "ldap:///cn=OfficeRegistry,($dn),
dc=sun,dc=com") (version 3.0;acl "Create a service entry under
authenticated users";allow (add,write)(userdn="ldap:///($dn),
dc=sun,dc=com");)
```

ここで、OfficeRegistry と dc=sun,dc=com はそれぞれ、導入時に指定したサービスエントリとベース DN に置き換える必要があります。

Active Directory サーバーの場合、ユーザーが自身のエントリ下にオブジェクトクラス oo-registry-object を作成できるようにアクセス権を変更する必要があります。

認証方式の設定

通常、ユーザーが LDAP ディレクトリサーバーにアクセスするには、認証および承認される必要があります。StarSuite には 2 つの認証方式があります。その 1 つは、簡易認証方式です。この方式では、ユーザーは起動時に認証情報を求められます。もう 1 つは、Kerberos 認証方式です。この場合、資格情報は OS 環境から検索されるので、ユーザーは起動時に追加情報を提供する必要はありません。

StarSuite のデフォルトの認証方式は簡易方式です。Kerberos 認証方式を有効にする場合は、ネットワークインストール用のプログラムディレクトリに sso.ini (Windows の場合) または, ssrc (UNIX の場合) というプロパティファイルを追加する必要があります。このファイルには、認証方式を指定する設定が含まれています。

■ **SSO_Mechanism:** StarSuite が使用する認証方式を指定します。KERBEROS または SIMPLE を指定します。

前の節で説明したように、configmgr.ini (Windows の場合) または configmgrrc (UNIX の場合) ファイルは、エントリ CFG_LdapKerberosService を含んでいる必要があります。さらに UNIX の場合は、LD_LIBRARY_PATH 環境変数に Kerberos のライブラリディレクトリを含める必要があります。



ユーザーは使用する認証方式の種類を選ぶことができます。つまり、StarSuite のオプションダイアログで認証方式を選択できます。

Sun ONE Directory Server プラグイン



Sun ONE Directory Server は、従来の iPlanet Directory Server のことです。このマニュアルでは、これら 2 つの表現が使われていますが、両者は同じものです。

Sun ONE Directory Server の一連のプラグインを使用することにより、Sun ONE (iPlanet) Directory Server で Kerberos 認証を有効にできます。

Kerberos 認証を有効にするには、関連するプラグインを LDAP サーバーに読み込む必要があります。これにより実質的に LDAP サーバーに Kerberos 認証機能が与えられます。これで Kerberos 対応の LDAP サーバーは、StarSuite からの Kerberos のチケットを認証できるようになります。

プラグインは、次の 3 種類です。

- SunKerberos_i4.so: iPlanet 4.x (Solaris) 用
- SunKerberos_i5.so: iPlanet 5.x (Solaris) 用
- SunKerberos_i5.dll: iPlanet 5.x (Windows 2000) 用

Microsoft Active Directory の場合、Kerberos サポートが組み込まれているのでプラグインは必要ありません。

Sun ONE Directory Server プラグインの読み込み手順

iPlanet 4.x Directory Server の場合

1. ディレクトリサーバーを停止します。
2. プラグインをディレクトリサーバーの `lib` ディレクトリにコピーします。

iPlanet Directory Server が `/usr/iplanet` にインストールされている場合は、プラグインを `/usr/iplanet/lib/SunKerberos_i4.so` にコピーします。

3. ディレクトリサーバーでプラグインを設定します。

プラグインを指定するエントリをサーバーの `slapd.ldbm.conf` ファイルに追加する必要があります。このファイルは、ディレクトリサーバーのインストールディレクトリ下の `slapd-<HOSTNAME>/config` ディレクトリにあります。`<HOSTNAME>` はディレクトリサーバーが稼動しているホスト名です。最初のエントリ `database ldbm` の後に、次のエントリを追加する必要があります。

■ Plugin preoperation on "Sun Kerberos Authentication": `usr/iplanet/lib/SunKerberos_i4.so`
`"SunKerberosAuthInit: "theServiceName" "theLibraryPath"`

「`/usr/iplanet`」の部分は、実際の iPlanet のインストールディレクトリ名に置き換えてください。

「`theServiceName`」は、KDC で登録したサービス名に置き換えてください。名前の書式は `ServiceName@host` です。

「`theLibraryPath`」は、`gssapi` 共有オブジェクトの `libgssapi_krb5.so` へのパスに置き換えてください。

パスの書式は `/usr/iplanet/lib/` となります (最後に「`/`」を指定)。

4. ディレクトリサーバーを再起動します。

iPlanet 5.x Directory Server の場合

1. ディレクトリサーバーを停止します。
2. プラグインをディレクトリサーバーの `lib` ディレクトリにコピーします。
3. iPlanet Directory Server が `/usr/iplanet` にインストールされている場合は、`/usr/iplanet/lib/SunKerberos_i5.so` にプラグインをコピーします (Windows では `SunKerberos_i5.dll`)。
4. ディレクトリサーバーでプラグインを設定します。
5. プラグインは次の手順でディレクトリサーバーコンソールから設定します。
 1. ディレクトリサーバーと管理サーバーを起動します。
 2. ディレクトリサーバーコンソールを起動します。
 3. ディレクトリサーバーコンソールで、**Directory** タブを選択します。
 4. ナビゲーションツリーで、**config** フォルダを開きます。
 5. **config** 下のプラグインフォルダを選択します。
 6. **Object** → **New** → **Other** メニューオプションを選択します。

7. 表示されたオブジェクトの一覧から `nsslapdplugin` を選択し **OK** をクリックします。
8. 以下に、プラグイン用に **Property Editor** に追加する必要がある情報を示します。
 - Full name: SunKerberosAuthentication
 - nsslapd-plugindescription: Kerberos Authentication Plugin.
 - nsslapd-pluginenabled: on
 - nsslapd-pluginid: SunKerberosAuthentication
 - nsslapd-plugininitfunc: SunKerberosAuthInit
 - nsslapd-pluginpath: <install directory>/lib/SunKerberos_i5.so
 - nsslapd-pluginintype: preoperation
 - nsslapd-pluginvendor: Sun Microsystems Inc.
 - nsslapd-pluginversion: 1.0



上記の <install directory> は、実際の iPlanet のインストールディレクトリ名に置き換えてください。

上記の値を指定したら、次の操作を行います。

9. **Property Editor** で **Object** クラスを選択して、**Add Value** をクリックします。
10. 表示されたオブジェクトクラスの一覧から `extensibleobject` を選択して、**OK** をクリックします。
11. **Property Editor** で **OK** をクリックし新しいプラグインのエントリを保存します。
12. **Configuration** タブを選択します。
13. **View** → **Refresh All** メニューを選択します。
14. ナビゲーションバーで **Plug-ins** フォルダを開きます。
15. `SunKerberosAuthentication` プラグインを選択します。
16. **Add** をクリックして、プラグインの引数を追加します。
17. Solaris の場合
 - サービス名を入力します。これは **KDC** で登録したサービスの名前です。この名前前の書式は `ServiceName@host` です。
 - ライブラリパスを入力します。これは `gssapi` 共有オブジェクトの `libgssapi_krb5.so` へのパスです。
 - パスの書式は `/usr/iplanet/lib/` となります (最後に `/` を指定)。
18. Windows の場合
 - **iPlanet Directory Server** がローカルシステムで稼動している場合、引数は必要ありません。
 - **iPlanet Directory Server** がドメインユーザーアカウントで稼動している場合、次のように入力します。
 - 引数 1 に、ドメインコントローラの **DNS** 名を指定
 - 引数 2 に、ドメインユーザーアカウントを指定
 - 引数 3 に、ドメインユーザーのパスワードを指定
19. **Save** をクリックします。

20. **OK** をクリックします。

21. ディレクトリサーバーを再起動します。



管理者は、iPlanet ディレクトリサーバーのプラグインのログ機能をオンにしておくことを推奨します。

基本設定用のレスポンスファイル

レスポンスファイルは、ユーザーインストールの自動化に使用できます。このファイルを使用することにより、基本設定にアクセスできるように **StarSuite Configuration Manager** のプロパティが設定されます。以下に、レスポンスファイルの例を示します (レスポンスファイルの使用手順と必要な環境設定については、『管理ガイド』を参照してください)。

```
[ENVIRONMENT]
INSTALLATIONMODE=INSTALL_NORMAL
INSTALLATIONTYPE=STANDARD
MIGRATION=NO
DESTINATIONPATH=<home>/starsuite7
LANGUAGELIST=81
STARTPROCEDURE=
ENDPROCEDURE=changeConfigMgrFile

[JAVA]
JavaSupport=preinstalled_or_none

[PROCEDURES]

Sub changeConfigMgrFile
    Dim filePath As String
    Dim configFile As String
    Dim configFileSav As String
    Dim aFileName As String
    Dim localSystem As String
    Dim strLine As String
    Dim newString As String
    Dim searchString1 As String
    Dim searchString2 As String
    Dim completeSourcePath As String
    Dim completeDestPath As String
    Dim fileNrRead As Integer
    Dim fileNrWrite As Integer

    Dim hostName As String
    Dim portNumber As String
    Dim baseDn As String
    Dim serviceDn As String
    Dim anonymousDn As String
    Dim anonymousPassword As String
    Dim kerberosService As String
    Dim isActiveDirectory As String

    REM *****
    REM please insert your LDAP configuration:

    REM Mandatory settings
```

```

serverName = "localhost"      REM LDAP server host name
portNumber = "389"           REM LDAP server port number
baseDn = "dc=sun,dc=com"     REM LDAP repository base DN
serviceDn = "OfficeRegistry" REM Service entry name (as input during
                             REM deployment)

REM Optional anonymous connection details
REM Only use these settings if the server does
REM not accept anonymous connection and provide
REM here an acceptable DN/password combination
REM allowing readonly access to the repository.

anonymousDn = "uid=someUser,ou=People,o=Somewhere,dc=sun,dc=com"
REM Anonymous user DN
anonymousPassword = "soopersikreet"      REM Anonymous user password

REM Optional Kerberos SSO integration
REM Only specify this setting if Kerberos is
REM being used for authentication to the LDAP
REM server and provide the service name.

kerberosService = "someServiceName" REM Kerberos service name

REM Optional Active Directory integration
REM Only specify this setting if the server
REM being accessed is an Active Directory one
REM and Kerberos authentication is being used.

isActiveDirectory = "true" REM Only meaningful value is "true"

REM *****

filePath = DirEntry(GetSetupEnv.DestPath, "program")

chdir filePath

REM searching for configmgr (Unix) or configmgr.ini (Windows)

aFileName = Dir(filePath, 0)

Do while (aFileName <> "")
    If (aFileName = "configmgr.ini") Then
        localSystem = "windows"
        Goto file_found
    End If

    If (aFileName = "configmgrrc") Then
        localSystem = "unix"
        Goto file_found
    End If

    aFileName = Dir
Loop

Goto file_not_found

```

```

file_found:

configFile = aFileName
configFileSav = configFile & ".sav"

completeSourcePath = DirEntry(filePath, configFile)
completeDestPath = DirEntry(filePath, configFileSav)

FileCopy(completeSourcePath, completeDestPath)

Kill completeSourcePath

REM reading configmgr.rc.sav (Unix) or configmgr.ini.sav (Windows)
REM writing configmgr.rc (Unix) or configmgr.ini (Windows)

fileNrRead = 1
fileNrWrite = 2

Open completeDestPath For Input As fileNrRead
Open completeSourcePath For Output As fileNrWrite

searchString1 = "CFG_BackendService"
searchString2 = "CFG_BackendWrapper"

Do While Not EOF(fileNrRead)
    Line Input #fileNrRead strLine

        If ((InStr(strLine, searchString1)=0) And (InStr(strLine,
searchString2)=0) And (strLine <> "")) Then
            print #fileNrWrite strLine
        EndIf
    Loop

Close #1

REM ... and now we can add the new lines

REM Mandatory entries

newString =
"CFG_BackendService=com.sun.star.comp.configuration.backend.LdapSingleBackend"
print #fileNrWrite newString

REM The following setting can have two values:
REM - if you want to use an offline cache for central configuration
REM access, use:
newString =
"CFG_BackendWrapper=com.sun.star.comp.configuration.backend.OfflineBackend"
REM - if you want to use direct access to the central configuration,
REM use:
newString =
"CFG_BackendWrapper=com.sun.star.comp.configuration.backend.SingleBackendAdapt
er"

print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapServerName=" & serverName

```

```
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapPortNumber=" & portNumber
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapBaseDn=" & baseDn
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapServiceDn=" & serviceDn
print #fileNrWrite newString

REM Optional settings, refer above for instructions

newString = "CFG_LdapAnonymousUser=" & anonymousUser
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapAnonymousPassword=" & anonymousPassword
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapKerberosService=" & kerberosService
print #fileNrWrite newString

newString = "CFG_LdapActiveDirectory=" & isActiveDirectory
print #fileNrWrite newString

Close #2

file_not_found:

End Sub
```


インストール

一般的なインストールのヒント

必要な知識と推奨事項

- StarSuite Configuration Manager のユーザーは、LDAP ディレクトリの概念に精通している必要があります。
- StarSuite Configuration Manager をインストールするときに、稼働中の LDAP サーバーは指定しないでください。

システム要件

一般システム要件

- CD-ROM ドライブ (CD-ROM インストールの場合)
- 250 MB のハードディスク空き容量
- 画面解像度 800 x 600、256 色以上のグラフィック性能

SPARC™ プラットフォーム上の Solaris™ オペレーティング環境用のシステム要件

- Solaris 7 または 8 のオペレーティング環境 (日本語のサポートには Solaris 8 を推奨)
- Solaris 8 には、パッチ 108434-01 および 108435-01 (64 ビット) が必要
- Solaris 7 には、パッチ 106327-08 および 106300-09 (64 ビット) が必要
- CDE または GNOME デスクトップ
- 128 MB RAM



Solaris オペレーティング環境用のパッチは、<http://www.sunsolve.com> から入手できます。

Intel プラットフォーム上の Solaris™ オペレーティング環境用のシステム要件

- Pentium プロセッサ、または Pentium 互換のプロセッサを備えた PC
- Solaris 7 または 8 のオペレーティング環境 (日本語のサポートには Solaris 8 を推奨)
- Solaris 8 には、パッチ 108436-01 が必要
- Solaris 7 には、パッチ 106328-08 が必要
- CDE または GNOME デスクトップ
- 64 MB RAM



Solaris オペレーティング環境用のパッチは、<http://www.sunsolve.com> から入手できます。

Linux 用のシステム要件

- Pentium プロセッサ、または Pentium 互換のプロセッサを備えた PC
- Linux Kernel 2.2.13 以上
- CDE または GNOME デスクトップ
- 64 MB RAM

Windows 用のシステム要件

- Windows 95 以上 (Windows 2000 または Windows XP を推奨)。Windows 95 の場合は、DCOM95 アップデートが必要
- Pentium プロセッサ、または Pentium 互換のプロセッサを備えた PC
- 64 MB RAM

インストール CD の内容

シングルプラットフォーム用の StarSuite CD の場合、インストールファイルは /admin ディレクトリにあります。マルチプラットフォーム用 CD の場合は、インストールファイルは次のディレクトリにあります。

- **Windows** 版: windows\admin
- **Linux** 版: linux/admin
- **SPARC** 版 **Solaris™** オペレーティング環境: solsparc/admin
- **Intel** 版 **Solaris** オペレーティング環境: solia/admin

CD からインストールするための準備

readme.txt (Windows の場合)、または README (Solaris および Linux の場合) ファイルには、インストールに関する大切なヒントが含まれています。このファイルは、/admin サブディレクトリにあります。このマニュアルが印刷されたあとで追加された情報も含まれているため、ぜひご一読ください。

インストール要件

選択するインストールオプションによっても異なりますが、StarSuite Configuration Manager のインストールには、およそ 100 MB の空き容量が必要です。さらに、インストール中に生成される一時ファイル用に、75 MB の空き容量が必要です。一時ファイルはインストールが完了すると削除されます。そのほか UNIX では、約 80 MB の一時スワップボリュームが必要です。

LDAP サーバーの要件

StarSuite Configuration Manager は、StarSuite Configuration Manager 導入ツールが正しくインストールされ、使用されることを前提としています。詳細については、このマニュアルの「導入」(9 ページ)を参照してください。

アプリケーションサーバーの要件

J2SE 1.4.0 以降が必要です。

サポートされているアプリケーションサーバーは、Sun ONE Application Server 7.0 と Tomcat 4.0.4 です。システムにアプリケーションサーバーがない場合、Tomcat 4.0.4 がインストールされます。

Tomcat 4.0.4 のインストールに必要なハードディスクの空き容量は、12.0 MB です。



インストール場所への書き込み権限が必要です。

ブラウザの要件

StarSuite Configuration Manager は次のブラウザをサポートします。

- Netscape 4.7x 以降
- Microsoft Internet Explorer 5.0 以降
- Mozilla 1.0 以降

Kerberos

Kerberos 認証は、Solaris、Linux、Windows クライアントでサポートされます。Solaris と Linux 上で Kerberos 認証が正しく動作するためには、MIT Kerberos 1.2.5 以降が必要です。Windows には、追加ソフトウェアは必要ありません。

Kerberos 認証は、Sun ONE Directory Server (Solaris および Windows) および Active Directory (Windows) でもサポートされます。Sun ONE Directory Server の一連のプラグインを使用することにより、iPlanet Directory Server で Kerberos サポートが有効になります。Windows には、追加ソフトウェアは必要ありません。

RedHat Linux 8

RedHat Linux 8 で Tomcat と共に J2SE 1.4.0 をインストールする場合は、comapat-libstdc++6.21-2.9.0.0.i386.rpm もインストールする必要があります。このファイルは RedHat Linux CD-ROM の /RedHat/RPMS ディレクトリにあります。このファイルのコピーは、<http://rpmfind.net> から入手することもできます。

ファイルをインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
rpm -install compat-libstdc++-6.21-2.9.0.0.i386.rpm
```

インストールの開始

UNIX での CD からのインストール

1. ユーザー名でシステムにログインします。
2. CDE または GNOME にログインします。
3. CD のインストールディレクトリに移動します。マルチプラットフォームインストール用の CD の場合、インストールファイルは次の場所にあります。

SPARC 版 Solaris: solsparc/admin

Intel 版 Solaris: solia/admin

Linux: linux/admin

4. 次のコマンドを入力して、インストールスクリプトを開始します。

```
./setup
```

Windows での CD からのインストール

1. ユーザー名でシステムにログインします。
2. インストール CD のセットアップディレクトリに移動します。
マルチプラットフォーム用 CD の場合、Windows のセットアップディレクトリは windows/admin です。
3. setup.exe をダブルクリックします。
または、
 1. Windows の スタート メニューを開きます。
 2. ファイル名を指定して実行 を選択します。
 3. 名前 テキストボックスに、次のように入力します。
X:\windows\admin\setup.exe
(「x」は、CD-ROM ドライブの名前を示します)。
4. **OK** をクリックしてインストールを開始します。

セットアップ手順

多くのセットアッププログラムのダイアログには、ヘルプ ボタンがあります。このボタンを押すと現在のダイアログについて短いヘルプテキストが表示されます。ヘルプテキスト画面の戻る ボタンを押すと、セットアッププログラムに戻ります。ヘルプテキストを閉じるときに、ダイアログボックスの右上にある「X」システムボタンを押さないでください。セットアッププログラムが終了してしまいます。

ようこそ

最初に「ようこそ」の画面が表示されます。

- 次へ をクリックします。

重要な注意事項

ウィンドウに、`readme.txt (Windows)` または `README (Solaris および Linux)` ファイルの内容が表示されます。このファイルは、インストール終了後に、ユーザーが指定したインストールディレクトリで開いて読むこともできます。

- ファイルの内容を読んで、次へ をクリックします。

ライセンス許諾書

次のダイアログで、ライセンス許諾書が表示されます。

- ライセンス許諾書は、注意して読んでください。すべての点に同意できる場合は、同意する をクリックして、インストールを続行します。ライセンス許諾書に同意しない場合は、キャンセル をクリックします。この場合、**StarSuite Configuration Manager** はインストールされません。
- ライセンス許諾書に同意しない場合は、キャンセル をクリックして、セットアッププログラムを終了します。

Web サーバー

Web サーバー ダイアログでは、インストール済みのコンテナセットまたはインストール可能なコンテナセットから、好みのサブレットコンテナを選択することができます。



- サブレットコンテナとして **Tomcat** を選択する場合は、次の操作を行います。
 - インストールディレクトリ フィールドに、**Tomcat** のインストール先を指定します。
 - **HTTP** ポート フィールドに、**Tomcat** の HTTP 要求ポートを指定します。
 - 停止要求ポート フィールドに、**Tomcat** の停止要求ポートを指定します。
 - 次へ をクリックすると **Java** 設定 ダイアログが表示されます。
- サブレットコンテナとして **Sun ONE Application Server** を選択する場合は、次の操作を行います。
 - インストールディレクトリ フィールドに、既存の **Sun ONE Application Server** がインストールされている場所を指定します。
 - インスタンス名 フィールドに、**StarSuite Configuration Manager** が導入される **Sun ONE Application Server** インスタンスの名前を指定します。
 - ポート フィールドに、**Sun ONE Application Server** の管理ポートを指定します。
 - ユーザー名 フィールドと パスワード フィールドに、**Sun ONE Application Server** の管理者権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードをそれぞれ指定します。
 - 次へ をクリックすると **LDAP** ディレクトリサーバー ダイアログが表示されます。

Java™ 設定ダイアログ

このダイアログには、システムに登録されている **Java Development Kit** のバージョンが一覧表示されます。

このダイアログで、使用する **Java Development Kit (JDK)** を選択します。バージョン **1.4** 以上を選択する必要があります。すでに **JDK** がインストールされている場合は、提示されたバージョンをインストールする必要はありません。



- 新しい Java Development Kit をインストールするか、リストから JDK を 1 つ選択します。
- 新しい JDK のインストールを選択した場合、Java ホーム フィールドを変更してインストール先を指定できます。
- 既存の **Java Development Kit** を選択します。の隣にある 検索 ボタンをクリックして、既存の JDK をリストに追加できます。
- 次へ をクリックして続行します。

新しい JDK のインストールは、LDAP ディレクトリのダイアログで 完了 がクリックされた後に実行されます。

LDAP ディレクトリサーバー

LDAP ディレクトリサーバー ダイアログでは、StarSuite 設定情報を保持するディレクトリサーバーとの接続および通信に必要な設定を指定することができます。



- 各フィールドに LDAP ディレクトリサーバーの情報を入力します。
 - ▷ ホスト名: LDAP ディレクトリサーバーのホスト名を指定します。
 - ▷ ポート: LDAP ディレクトリサーバーのポート番号を指定します。通常、**389** です。
 - ▷ ベース **DN**: 企業ディレクトリのルートエントリの場所を指定します。
 - ▷ **StarSuite** 設定データディレクトリ: LDAP ディレクトリに格納される **StarSuite** 設定の場所を指定します。格納場所は導入時に指定する必要があり (「導入」を参照)、そこで指定した値をここに入力する必要があります。デフォルトは、**OfficeRegistry** です。
 - ▷ 読み取り権を持つユーザー **DN**: リポジトリに対する読み取り権と検索権を持つ既存 LDAP ユーザーのフル **DN**。このエントリの指定は任意です。指定しない場合は、サーバーへの匿名アクセスが使用されます。
 - ▷ パスワード: 上記ユーザーのパスワード。



指定した LDAP ディレクトリサーバーの情報は、セットアップ時には検証されず、テキストファイル `jproxy.cfg` に書き込まれます。このファイルは、導入された **StarSuite Configuration Manager** の **WEB-INF** サブディレクトリ下に置かれ、簡単なテキストエディタで修正および変更することができます。

- **完了** をクリックするとインストールの準備が終了します。

ファイルのコピー

インストール中は、進捗状況と完了までの推定残り時間が画面に表示されます。

インストールの終了

インストールが終了すると、インストールの終了ダイアログが表示されます。

- **完了** をクリックするとインストールが終了します。

使用法

ログイン



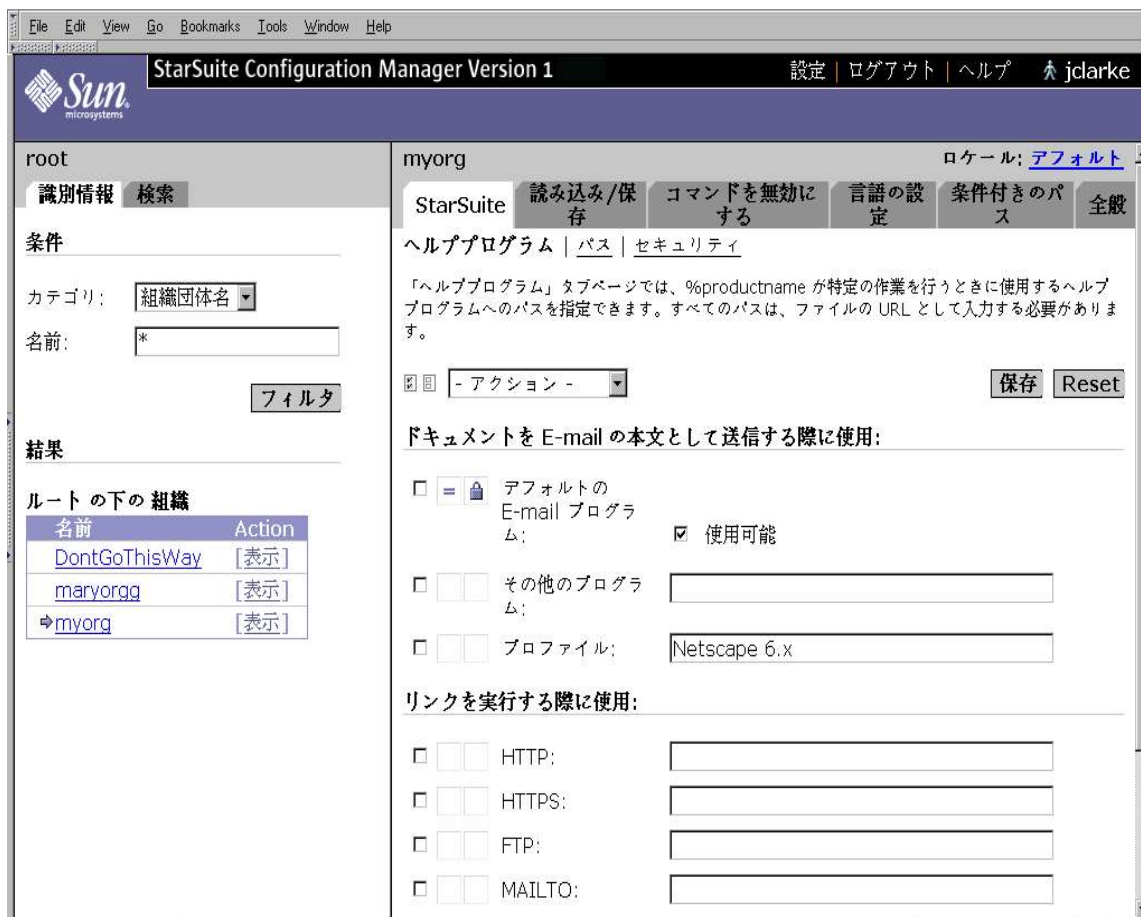
StarSuite Configuration Manager を使用するには、Netscape 4.7 以上、Internet Explorer 5.0 以上、Mozilla 1.0 以降のいずれかが必要です。

1. StarSuite Configuration Manager のログインページにアクセスするには、使用しているブラウザで `http://host:port/scm/threepane/Login` と URL を入力します。ここで、`host` と `port` は、セットアップ手順で指定したサーバー名とポート番号になります。たとえば、`http://myserver:8080/scm/threepane/Login` と入力します。
2. StarSuite Configuration Manager のログインページでユーザー名とパスワードを入力し、ログイン ボタンをクリックします。
3. 認証が正しく行われると StarSuite Configuration Manager は、StarSuite Configuration Manager セッションのオープニングページを表示します。ログインエラーがあった場合は、ログインページに戻りエラーの原因が表示されます。



ログイン後の操作はすべて、ユーザーに付与された権限に基づいて実行されます。

ユーザーインターフェース



StarSuite Configuration Manager のほとんどのページは、次の 3 種類の区画で構成されます。

- ヘッダー (一番上)
- ナビゲーション 区画 (左)
- コンテンツ 区画 (右)

さらに、ダイアログまたはオンラインヘルプを呼び出すと、別のブラウザウィンドウが開きます。

ナビゲーション区画

組織の機能グループの階層を横断的に表示することができます。

階層における関連性

StarSuite Configuration Manager を使用して階層をナビゲートする前に、3 つのエンティティタイプの関連性を理解する必要があります。次のような関連性があります。

- 組織は、組織、役割、ユーザーを含むことができます。
- 役割は、その他の役割とユーザーのメンバーを含むことができます。

- ユーザーは、何も含むことはできませんが、役割のメンバーになれます。

「含む (contain)」と「メンバー (member)」の関連性の違いを理解するようにしてください。「含む」は、「1」対「多」の関連性になりますが、「メンバー」は、「多」対「多」の関連性になります。

- 各エンティティタイプが持てる親エンティティは1つだけです。このため、最上位のルートは、特別な組織であるとみなされます。
- 下位の役割はすべて親ノードと同じ組織に所属します。

役割の優先度

優先度は、エンティティの順位付けを行います。これは指定された順番にレイヤーを統合するために必要です。通常、優先度は組織階層内のエンティティの位置により決まります。階層の最上位のエンティティは最も一般的なエンティティで、最も低い優先度になります。ただし、そのエンティティが、同じ組織レベルにある2つの役割のメンバーである場合、順序を指定するために優先度を割り当てる必要があります。このような優先度を役割優先度と呼びます。

- 優先度は、組織階層により決まります。
- 最上位のエンティティの優先度がもっとも低くなります。
- 下位エンティティへのパスを進むにつれ、優先度が増します。下位組織の優先度は常に親組織より高くなります。
- ユーザーは同じ組織に属する複数の役割を持つメンバーの可能性があるので、これらの役割の優先度を定める基準を設けることが必要です。基準として、役割優先度を示す任意の英数字の値を指定できます (詳細については、このマニュアルの「役割優先度の変更」を参照してください)。役割優先度を特に指定しないと、役割名のアルファベット順により、優先度が決まります。
- 「役割」は、ほかの役割を含むことができます。この役割階層は優先度に影響しません。
- ユーザーの優先度は常に最高です。

例:

Org1 と Org2 の2つの組織があるとします。Org1 は、組織 Org11 と役割 O1Role1 および O1Role2 を含みます。O1Role1 は、役割 O1R1Role1 を含みます。Org2 は、O2Role1 と O2Role2 を含みます。Org11 は、役割 O11Role1 とユーザー User1 を含みます。User1 は、O1Role2、O1R1Role1、O2Role1 および O11Role1 のメンバーです。

役割 O1Role1、O1Role2、O1R1Role1 は同じ組織に属するので、役割優先度を設定する必要があります。優先度は、それぞれ 0、2、1 と設定します (0 がもっとも一般的、つまり優先度は最低です)。役割 O2Role1 と O2Role2 にも、役割優先度を設定する必要があります。それぞれ、0 と 1 に設定します。

この結果、さまざまなエンティティの設定データに含まれるレイヤーは、次のようになります。

- Org11 → Default/Org1/Org11

- O1Role2 → Default/Org1/O1Role2

- O1R1Role1 → Default/Org1/O1R1Role1: ただし、O1Role1 は、役割階層が無視されるので含まれません。

- User1 → Default/Org1/O1R1Role1/O1Role2/Org11/O11Role1/User1: ただし、a) Org1 の役割は、各自の属する階層ではなく、優先度の値に従って順に並べられます。b) O2Role1 は含まれません。User1 とは、属する組織ツリーのブランチ (枝) が異なるからです。

識別ナビゲーション

この機能により、組織の 4 つのカテゴリとレベルを参照できます。

- 組織
- 役割
- ユーザー
- 役割優先度

組織階層と役割優先度の詳細については、このマニュアルの「階層における関連性」を参照してください。

カテゴリをナビゲートする

1. カテゴリ リストボックスからカテゴリを選択します。
2. カテゴリの絞り込み検索を行うには、名前 フィールドに文字列を入力します。

名前 フィルタの文字列のデフォルト値は、「すべて」を表す「*」です。アスタリスクは、名前 フィールドに入力する文字列で、ワイルドカードとして使用できます。

識別情報 ページのフィルタは、現在のカテゴリレベルで、同一レベルの検索のみを行います。組織ツリー全体を検索するには、検索 ページ機能を使用します。

3. フィルタ ボタンをクリックするか、**Enter** キーを押します。

結果は、結果 セクション内の表に表示されます。表には、名前 と アクション の 2 つの見出しがあります。フィルタ結果は、名前 の下に一覧表示され、各結果に関連するアクションが表示されます。表示 リンクをクリックすると、コンテンツ区画が更新され、そのエンティティの設定詳細が表示されます。結果表内の矢印により、どのエンティティの設定が表示されているかがわかります。

下位エンティティを含むことのできるすべてのエンティティが、リンクとして表に表示されます。

4. 下位組織または下位の役割を表示するには、結果 表の 名前 列で、希望のエンティティをクリックします。このエンティティは、リンク形式になっています。

表が更新され、すべての既存の下位エンティティが表示されます。表のエンティティをクリックし続けると、組織の各レベルの間を移動できます。階層内でユーザーが現在いる場所が、ナビゲーション区画の一番上の階層パスに反映されます。

5. 現在の階層を上へ移動するには、ナビゲーション区画の一番上に表示される階層パス内のリンクをクリックします。

ナビゲーション区画とコンテンツ区画は、常に連動しています。ナビゲーション区画内で異なるエンティティを選択すると、コンテンツ区画が対応する設定に自動更新されます。

名前	Action
suborg	[表示]
suborg10	[表示]
suborg11	[表示]
suborg12	[表示]

役割優先度の変更

「役割優先度」カテゴリを選択すると、組織内のすべての役割の優先度を表示して、編集することができます。ユーザーが複数の役割のメンバーで、これらの役割が同じ組織の下位要素である場合は、役割優先度を使用して、レイヤーの統合を正しい順序で指定できます。詳細については、このマニュアルの「階層における関連性」(32 ページ)を参照してください。

1. カテゴリ リストボックスから「役割優先度」を選択します。

2. フィルタ ボタンをクリックします。

役割は、表の結果 セクションに、アルファベット順で表示されます。現在の優先度の値は、現在の優先度 列に表示されます。優先度が割り当てられていない場合は、現在の優先度 列に「-」が表示されます。

3. 優先度の値を変更するには、新しい優先度 列のフィールドに各役割の値を入力します。各役割の優先度には、一意の値を設定する必要があります。

4. 保存 ボタンをクリックして変更を保存します。

保存 ボタンにより、入力した値の妥当性が検証されます。各役割が優先度の値を持ち、それらの値に重複がないことが確認されます。

5. 役割優先度を、最後に LDAP に保存された状態に戻すには、元に戻す ボタンをクリックします。

検索

この機能により、検索パターン、エンティティタイプ別にエンティティを検索できます。クエリーで拡張検索の詳細を入力できます。以下について検索できます。

- 組織
- 役割
- ユーザー



エンティティを検索する

1. ナビゲーション区画で 検索 タブをクリックします。

検索 タブの表示は、選択したカテゴリに応じて 2 種類に異なります。

- どちらの表示にも カテゴリ リストボックスがあり、ユーザーは、ルート から検索するか、現在の場所 から検索するかを選べます。
- 「組織」および「役割」カテゴリの検索では、ユーザーは、名前 テキストフィールドでのみ検索できます。
- ユーザーカテゴリの検索では、ユーザー ID、姓名、名、姓 で検索できます。

2. カテゴリ リストボックスから基準を選択します。

3. カテゴリの検索結果を絞り込むには、各カテゴリタイプの検索フィールドに文字列を入力します。

フィルタ文字列のデフォルト値は、「すべて」を表す「*」です。アスタリスクは、ワイルドカードとして検索フィールドに入力できます。

4. 開始場所 セクションの現在の場所 または ルート を選択して、検索の開始場所を決めます。

どちらを選択しても、組織ツリー全体が検索されます。異なるのは、検索の開始場所です。「ルート」は、組織ツリーの最上位から検索され、「現在の場所」は、ツリーの現在のレベルから検索されます。

5. 検索 ボタンをクリックします。

検索が終了すると、結果 タブが有効になり、結果が表に表示されます。この表では、識別情報タブの結果表と同じ操作を行えます。

6. ほかのクエリーを実行するには、検索 タブページの一番上にある クエリー リンクをクリックします。











コンテンツ区画

エンティティの設定のナビゲーションと編集は、コンテンツ区画で行います。コンテンツ区画の一番上には、設定カテゴリを表すいくつかのタブがあります。コンテンツ区画の左上には、現在表示されているエンティティの名前が表示されます。右上には ロケール リンクがあり、現在の設定ロケールを変更できます。

コンテンツ区画には、2種類のタブがあります。1つは全般 タブで、すべての設定項目の概要を表示します。これ以外のタブはすべてその他のタブと呼びます。

その他のタブは、最も重要で一般的に使われる管理作業用にカスタマイズされています。その他のタブで利用可能な設定のほとんどは、StarSuite の ツール → オプション ダイアログの設定に直接対応しています。各タブのカテゴリには、そのタブページ内でサブカテゴリを持たせることができます。

各 その他のタブ ページには、その目的に応じたフィールドが含まれています。全般 タブページとその他のタブ ページには、以下のように共通のボタンとアイコンがあります。

	全て選択 – 表示されているリスト内のすべての項目を選択します。
	全て選択解除 – 表示されているリスト内で印を付けたすべての項目の選択を解除できます。
	アクションリスト – 該当項目を選択し、その選択項目で行うアクションを指定できます。
	定義済み (このレイヤー) – 要素がこのレイヤーで定義されていることを示します。
	定義済み (上位レイヤー) – 要素が別の上位レイヤーで定義されていることを示します。
	保護済み (この要素) – 要素が保護されていることを示します。この属性のソース要素は現在の要素です。
	保護済み (このレイヤー) – 要素が保護されていることを示します。この属性のソース要素は、同じレイヤーの上位要素になります。
	保護済み (上位レイヤー) – 項目が保護されていることを示します。この属性のソース要素は、上位レイヤーにあります。これは現在の要素を読み取り専用にします。
	削除可 – 要素が削除できることを示します。必須セットの要素だけでなく、拡張プロパティにも適用されます。
	必須 – 要素の値が必須であることを示します。ヌル以外の値を指定してください。

上記に加えて、保存 ボタンと 元に戻す ボタンは、編集可能な要素を含むすべてのページに表示されます。保存 ボタンは、設定項目の値に対するすべての変更を保存します。元に戻す ボタンは、変更された (未保存の) 値を元の値に戻します。つまり、そのページは元の値で再読み込みされます。

コンテンツ区画でのナビゲーション

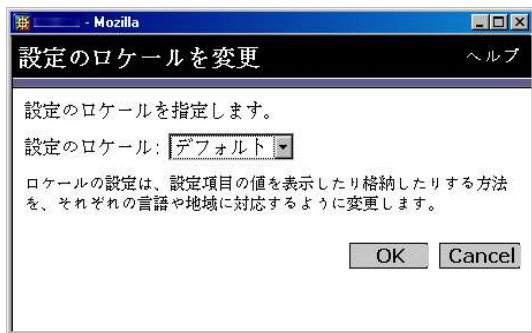
コンテンツ区画の異なるセクション間をナビゲートするには、表示するタブページをクリックします。

StarSuite Configuration Manager の組織階層の詳細については、このマニュアルの「階層における関連性」(32 ページ) を参照してください。

ロケールの変更

ロケール設定は、設定項目の値の表示と保存方法を、言語および地理的特性に応じて変更します。StarSuite Configuration Manager はロケールの設定を使用して、特定のロケールに属する値の保存と検索を行います。新しい項目値を編集および保存した場合、現在のロケール用の項目だけに影響します。ほかのロケール用の同じ項目値は、変更されません。

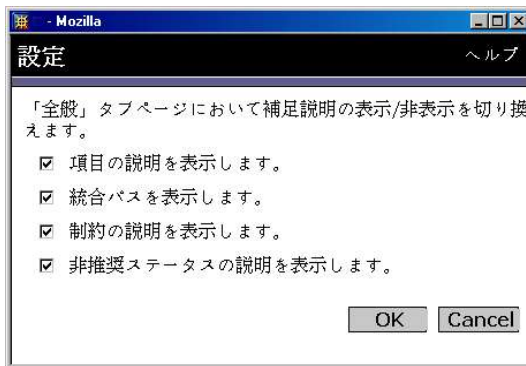
現在のロケールを変更するには、コンテンツ区画右上隅のロケールリンクをクリックします。設定のロケールを変更ダイアログが開きます。ダイアログの 設定のロケールのリストから異なるロケールを選択できます。



StarSuite Configuration Manager には、アプリケーションロケールという別の種類のロケール設定があります。この設定は、ユーザーインターフェース項目の内容とラベルに影響し、ユーザーのブラウザ設定から自動的に抽出されます。この設定は、コンテンツ区画のロケールを選択機能に反映されたり、その影響を受けることはありません。

お気に入りの設定

ヘッダーの 設定リンクをクリックすると、設定 ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、SCM の操作中表示される内容を、自分好みに設定できます。



現在この機能で設定できる内容は、コンテンツ 区画の 全般 タブページの表示のみです。設定できる項目は、以下のとおりです。

- 統合パスを表示します: 統合パスとは、プロパティ値に到達するまでのレイヤー (エンティティのレベル) を順番に並べたものです。
- 項目の説明を表示します: 項目の説明とは、プロパティとその設定の意味を簡単に説明したものです。
- 非推奨ステータスの説明を表示します: 設定内のプロパティの一部には、非推奨マークが付いているものがあります。非推奨の状態について、追加説明を表示することができます。
- 制約の説明を表示します: 制約とは、有効範囲を制限するものです。制約は常に、該当の値入力フィールドの横に表示されます。ユーザーはこのオプションを使用して、制約についての詳細説明を表示することができます。

「全般」タブページ

全般 タブページでは、ユーザーの全設定項目の詳細を参照し、すべての設定項目の概要を得ることができます。

「全般」タブページでは、すべての設定項目を表示して設定のすべての詳細を確認できます。

コンポーネント

名前	コメント
Addons	Contains general structures used to integrate external components into the Office user interface.
Calc	Contains settings for the spreadsheet application.
Chart	Contains settings for the Chart application.
Commands	Contains general information about ~ and rules, and about actions based on office commands.
Common	Contains common settings which are potentially shared by other components.
Configuration	Contains components and templates used for UCB configuration related data.
DataAccess	org.openoffice.Office.DataAccess
Draw	Defines the properties of the Draw application.
Hierarchy	Contains components and templates used by UCB's Hierarchy Content Provider (HCP).
Impress	Contains configuration items related to the Impress application.
Inet	Contains Internet-related configurations (proxies, search engines, etc.).
Java	org.openoffice.Office.Java
Jobs	Contains information about registered jobs, bound on

ページの一番上に、現在表示している内容のある場所を示す階層パスリンクがあります。階層パスリンクの下に、コンポーネント表があり、設定項目が表示されます。この表には 2 つの列があります。

- 名前列には、すべての項目が一覧表示されます。項目をクリックすると、コンテンツ区画にその項目のページが表示されます。
- コメント列には、その項目の説明が表示されます。

「全般」タブページのナビゲーション

全般タブページをナビゲートするには、コンポーネント表に一覧表示されている項目の 1 つをクリックします。下位項目表が表示され、選択したコンポーネントの下位項目がすべて一覧表示されます。

移動 [プロパティ](#)

下位項目

- アクション -

<input type="checkbox"/>	名前	コメント
<input type="checkbox"/>	StartEndCharacters	Contains the characters at which lines are not allowed to begin or to end. For each locale there is a separate entry with the locale as its node name. 統合パス: myorg

プロパティ

- アクション -

CompressCharacterDistance: (short)

Determines the type of character distance compression in

コメント列には、各下位項目への統合パスがあります。統合パスにより、現在表示されているデータが、どのようなレイヤー構成順序により生成されているかを視覚的に確認できます。

プロパティセクションも表示されます(プロパティがある場合)。プロパティセクションには、現在のコンポーネントまたは下位項目が持つプロパティがすべて一覧表示されます。プロパティがない場合、プロパティセクションは表示されません。プロパティセクションが含まれるページでは、階層パスの下に、移動プロパティリンクが表示されます。

現在の項目の下位項目をクリックすると、コンテンツ区画の表示がその下位項目に変わります。それ以降の下位項目が存在しない場合、属性だけが一覧表示され、下位項目表は表示されません。

階層を上方向にたどるには、コンテンツ区画の一番上の階層パスにあるリンクをクリックします。

項目またはプロパティでのアクションの実行

下位項目 セクションとプロパティ セクションには、**Select All** アイコン、**De-select All** アイコン、各項目に対応するチェックボックス、およびアクション リストボックスがあります。これらのアイコンおよびボックスを使用して、すべての項目または個々の項目を選択し、実行するアクションを選択できます。

1. 希望の項目またはプロパティに対応するチェックボックスをオンにします。
2. 対応する表の上にある アクション リストから、アクションを選択します。有効なアクションと操作については、以下の表を参照してください。
3. アクションが実行され、変更は LDAP サーバーに保存されます。保存 ボタンをクリックする必要はありません。

アクション	機能	使用対象
保護	選択した項目またはプロパティを保護設定にする。ある項目について保護アクションを実行すると、ユーザーは、その特定の項目またはプロパティを StarSuite で個別に設定することができなくなる。	書き込み可能で、保護設定が解除された項目とプロパティ
保護解除	選択した項目またはプロパティの保護設定を解除する。解除する保護設定を設定階層内から継承する場合、保護の設定元が検索され、設定元で保護設定が解除される。	書き込み可能で、保護設定された項目とプロパティ
(パスの) 保護解除	選択した項目またはプロパティの保護設定を解除する。解除する保護設定を設定階層内から継承する場合、保護の設定元が検索され、項目またはプロパティへのパスの保護設定のみが解除される。設定元より下位にあるほかのすべての下位項目やプロパティの保護は継続する。	書き込み可能で、保護設定された項目とプロパティ
必須項目に設定	選択した項目またはプロパティを、現在のセット内で必須設定にする。	設定タイプの項目
必須項目を設定解除	選択した項目またはプロパティを必須設定にしない。	必須設定の項目
Nil に設定	選択した項目またはプロパティの値を Nil にする。	書き込み可能なプロパティ
デフォルトに設定	現在のレイヤーが読み込まれる前の元のプロパティ値にリセットする。	書き込み可能なプロパティ
削除	選択した項目またはプロパティを削除する。	設定タイプの項目と拡張可能な項目

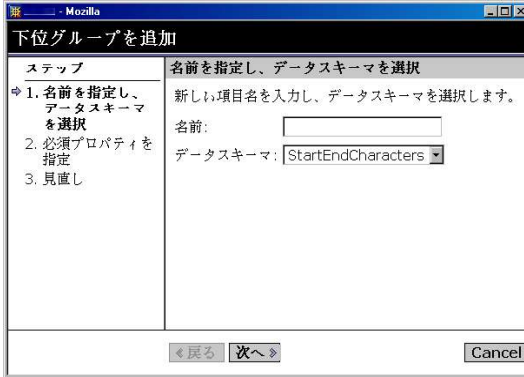


- 「設定タイプの項目」は、ほかの項目を任意の数だけ含むことができます。これらの下位項目 (設定タイプの項目またはグループ項目の場合) も、複数の項目を含むことができます。この機能により、複数の項目からなるツリー構造を構築できます。
- 「拡張可能な項目」は、プロパティの追加および削除が可能な項目です。表示されている項目が拡張可能な場合には、追加 および 削除 の機能が利用可能になります。
- 「Nil 可能なプロパティ」は、値 Nil を持つことができます。この値は、空白の文字列値とは異なります。

項目の追加

現在の項目がセット型の場合は、新しい項目を追加できます。

1. 追加 ボタンをクリックすると、プロパティを追加 ダイアログが開きます。
2. 各フィールドに項目の名前とデータスキーマを指定して、次へ ボタンをクリックします。
3. 項目の必須プロパティを指定して、次へ ボタンをクリックします。
4. 設定を確認します。正しければ 完了 ボタンをクリックし、変更する場合は、戻る ボタンをクリックします。



項目の追加を終了してダイアログを閉じると、新しく追加した項目が反映されて項目の一覧が更新されます。

項目の削除

設定タイプの項目の場合、その項目に属する下位項目を一覧から削除できます。

1. 該当する表で、その項目に印を付けます。
2. 表の上にあるアクションリストから 削除 を選択します。
3. 項目が削除され、変更が LDAP サーバーに保存されます。保存 ボタンをクリックする必要はありません。

その他のタブページ

次の節では、コンテンツ区画にあるその他のタブページについて説明します。

StarSuite の「ヘルププログラム」タブページ

ヘルププログラム タブページでは、StarSuite が特定の作業に使用する補助プログラムへのパスを指定できます。すべてのパスは、ファイルの URL で入力する必要があります。

文書を電子メールとして送信して送信するときに使用するものセクションは、使用する外部メールソフトを指定します。

- デフォルトの電子メールプログラムが、ユーザーが登録したメーラーアプリケーションを使用するようにします (この設定は Windows プラットフォームで StarSuite を実行するユーザーのみに適用されます)。
- その他のプログラム フィールドでは、外部メールソフトへのパス (ファイルの URL を指定する) を指定します。

- プロファイルフィールドは、パラメータを外部メールソフトに渡す方法を指定します。現時点では存在するプロファイルは「Netscape 6.x」のみです。



独自のプロファイルを追加するには、全般 タブで **Components>Common>ExternalMailer>Profiles** とナビゲートします。

リンクを実行するときに使用するもの セクションでは、リンクを使用すると呼び出されるアプリケーションを指定します。**Windows** 以外のオペレーティングシステムにのみ適用されます。

- **HTTP、HTTPS、FTP、MAILTO** の各フィールドは、リンクの準拠プロトコルを指します。アプリケーションへのパスを入力できます (URL 表記 `file` が必須)。

ファイルマネージャー セクションは、ファイルマネージャーを指定し、**Windows** 以外のオペレーティングシステムにのみ適用されます。

- プログラムフィールドには、種別を判別できないファイルを **StarSuite** で開く場合、または、`file` プロトコルを持つリンクをたどる場合に起動されるアプリケーションへのパス (URL 表記 `file` を使用) が含まれています。

StarSuite の「パス」タブページ

パス タブページでは、たとえば、自動バックアップコピーなどを行うときに、**StarSuite** がデータにアクセスおよび保存するときに使用するパスを指定できます。すべてのパスは、URL 表記 `file` を使用して入力する必要があります。

- アドインフィールドは、**StarSuite** のアドインのディレクトリを示すパスを指定します。
- 入力支援フィールドは、**StarSuite** の入力支援ファイルを格納するディレクトリを示すパスを指定します。
- バックアップフィールドは、編集された文書の自動バックアップコピーを **StarSuite** が保存するディレクトリを示すパスを指定します。
- マイドキュメントフィールドは、ファイルを開くと最初に表示されるパスを指定します。
- テンプレートフィールドは、テンプレートを保存するディレクトリを示すパスを指定します。

すべてのデフォルトのパスを編集するには、全般 タブページで、**Components>Common>Path>Current** とナビゲートします。



StarSuite インスタンスが実行される環境に応じて内容が変わる変数を指定するには、条件付きのパス タブページを使用します。

よく使われるパスを含む定義済みのパス変数は、以下のとおりです。大文字と小文字は区別され
ます。

変数	説明
<code>\$(wo)</code>	プログラムディレクトリ
<code>\$(inst)</code>	インストールディレクトリ
<code>\$(user)</code>	ユーザーディレクトリ
<code>\$(work)</code>	作業ディレクトリ
<code>\$(home)</code>	ホームディレクトリ
<code>\$(temp)</code>	ユーザー用に設定された一時ディレクトリ
<code>\$(lang)</code>	ディレクトリ名に言語 ID (LanguageId) を使用する言語依存のディレクトリ
<code>\$(langid)</code>	文字列によるアプリケーションの言語型 (例、「1031」)
<code>\$(vlang)</code>	ディレクトリ名に英語名を使用する言語依存のディレクトリ
<code>\$(path)</code>	現在のパス

次の変数は非推奨ですが、完全にサポートされています。

変数	説明
<code>\$(insturl)</code>	<code>\$(inst)</code> の使用を推奨
<code>\$(instpath)</code>	<code>\$(inst)</code> の使用を推奨
<code>\$(progurl)</code>	<code>\$(prog)</code> の使用を推奨
<code>\$(progpah)</code>	<code>\$(prog)</code> の使用を推奨
<code>\$(userurl)</code>	<code>\$(user)</code> の使用を推奨
<code>\$(userpath)</code>	<code>\$(user)</code> の使用を推奨

StarSuite の「セキュリティ」タブページ

セキュリティ タブページでは、StarSuite の重要なセキュリティ関連の設定を変更できます。

マクロを実行 ドロップダウンリストでは、StarSuite でマクロの使用を許可するかどうかを指定
します。「しない」、「常に実行する」、「パスのリストどおりに」を選択できます。「パスの
リストどおりに」を選択すると、該当文書がリスト中のパスの 1 つから派生する場合にのみマク
ロが実行されます。

パスリスト テキストフィールドでは、許可するパスのリストを指定できます。パス名は、スペー
スで区切って 1 行に指定します。テキストを整えるために、改行やタブを使わないでください。
パスは、ファイルの URL で指定する必要があります。また、`$(temp)` のようなパス変数も使用で
きます。

拡張オプション セクションでは、有効にできるセキュリティ関連の機能について簡単に説明して
います。

- **Java** チェックボックスは、StarSuite の Java サポートを切り替えます。
- **プラグイン** チェックボックスは、プラグインの使用を切り替えます。
- **アプレット** チェックボックスは、アプレットの使用を切り替えます。

「読み込み/保存」タブページ

読み込み/保存 タブページでは、文書の保存に関連する設定を指定できます。文書の種類ごとに標準の形式を指定できます。

常にバックアップコピーを作成 チェックボックスでは、ファイルが変更される前に、元のファイルのコピーを **StarSuite** が保存するかどうかを指定できます。

標準のファイル形式 セクションは、**StarSuite** 文書を保存したときに使用される標準のファイル形式について説明しています。

- 文書の種類 リストボックスでは、**StarSuite** の文書の種類を選択します。
- 選択した文書の種類に対して、常に別名で保存 ドロップダウンボックスを使用して、**StarSuite** が文書の種類を保存するのに使用するファイル形式を指定できます。

「コマンドを無効にする」タブページ

コマンドを無効化にする タブページでは、**StarSuite** の特定のコマンドを無効化して、単一のメニュー項目や、メニューコンポーネント全体を無効にできます。

無効にするコマンドをテキストフィールドに入力して、追加 ボタンをクリックします。以下に、コマンドの一部を示します。

コマンド	効果
NewDoc	ユーザーは新規文書を作成できません。
Open	ユーザーは既存の文書を開けません。
Paste	ユーザーは、内容を貼り付けることができません。
Quit	ユーザーはアプリケーションを終了できません。

「言語の設定」タブページ

言語の設定 タブページでは、言語やロケールを設定を変更して、**StarSuite** をユーザーが住んでいる地域に合わせるすることができます。アジア言語と CTL (Complex Text Layout) のサポートも提供されます。

言語 セクションでは、言語依存の設定を指定します。

- ロケールの設定 では、ISO-639 言語コードと ISO-3166 国コードで言語を指定します。2つのコード間は、ダッシュでつなげます。たとえば、カナダ英語のロケールを指定する場合、正しい入力は「en-CA」となります。
- デフォルトの通貨 では、ISO-4217 通貨コードに基づき、**StarSuite** で使用するデフォルトの通貨を指定します。同じ通貨名で異なる通貨があるので (例、カナダドルと US ドル)、ISO-639 言語コードと ISO-3166 国コードを付加します。したがって、カナダドルの正しい入力は、「CAD-en-CA」となります。

拡張言語サポート セクションでは、より複雑なテキストレイアウトとフォントを必要とする言語の使用を指定できます。

- アジアの言語 の設定により、縦書きなど、アジアの言語特有の特徴をサポートする追加の GUI 要素の使用が可能になります。

- **CTL (Complex Text Layout)** では、レイアウトが右から左方向のヒンディ語またはヘブライ語などの言語に特有の特徴をサポートする、特殊フォントなどの追加の GUI 要素の使用が可能になります。
 - **CTL** シーケンスチェック では、CTL の文字列が正しい順序で入力されているかどうかの確認について指定します。
- ドキュメントごとのデフォルト言語 セクションでは、文書のデフォルト言語を指定します。
- 西欧諸国の言語 の設定では、英語やドイツ語などすべての西欧の言語を指定します。
 - アジア の設定では、中国語や日本語などすべてのアジア言語を含みます。この設定は、アジアの言語 を有効にした場合にのみ変更できます。
 - CTL の設定はアラビア語など、複雑なテキストレイアウトのサポートを必要とするすべての言語を含みます。この設定は、**CTL (Complex Text Layout)** を有効にした場合にのみ変更できます。

「条件付きのパス」タブページ

条件付きのパス タブページでは、StarSuite のさまざまな作業環境へのパスを指定できます。これは異機種環境 (たとえば、UNIX と Windows など) におけるインストールに便利です。

まず、テキストフィールドにパス名 (例、*myPath*) を入力して、新しい変数を追加します。追加ボタンをクリックします。この名前は、大文字と小文字が区別されるので注意してください。新しく追加した変数をクリックすると、この変数の条件 画面が開きます。この画面で、任意の数の条件を追加して、変数に置き換えられるパス (ここでは、*\$(myPath)*) と、条件を関連付けることができます。追加ボタンをクリックすると、新しいダイアログウィンドウが開きます。

条件を指定 ダイアログで、条件名 (例、*WindowsEnvironment*) と、後続の条件が真の場合に使用されるパスを指定できます (例、*file:///C:/temp*)。必ず、OS 固有のパスでなく、ファイルの URL を入力してください。

条件は、OS、ホスト、またはドメインベースで指定できます。OS を選択すると、OS、Solaris、Linux、UNIX、または Windows を選択できます。ホストはどのようなホスト名でも使用できます (ワイルドカードの「*」を使用できます)。ドメインは、DNS、YP、NT のどのドメインでもかまいません (ワイルドカードの「*」を使用できます)。適切な条件を指定したら (例、OS は Windows)、ダイアログを終了できます。

この機能を十分に活用するには、少なくとも別の名前の条件を 1 つ追加する必要があります。たとえば、「*SolarisEnvironment*」条件 (Solaris で稼動する StarSuite がある) を追加できます。この場合、OS に *Solaris*、パスに */tmp* を選択します。

これで、新しく定義した変数 *\$(myPath)* が、StarSuite のパス タブページで使用できます。この変数定義の対象ユーザーが StarSuite を起動すると、条件が 1 つずつチェックされ、条件が真であるかどうかを確認されます。真の場合は、変数は指定されたパスに置き換えられます。これによりユーザーは

Windows と Solaris 環境で StarSuite をインストールして、各 OS への正しい (個別の) パスを取得することができます。

定義済みの、非条件付きパスの変数リストについては、StarSuite の「パス」に関するヘルプページを参照してください。

ログアウト

ヘッダーのログアウト リンクをクリックすると、StarSuite Configuration Manager セッションを終了できます。

ヘルプ

ナビゲーション中のヘルプは、次の 3 つの方法で提供されます。

- メインのヘルプページにアクセスするには、ヘッダーの右上にある ヘルプ リンクをクリックします。ブラウザウィンドウが新たに開きます。

コンテンツ区画をナビゲートしているときは、ヘルプ機能はコンテキストに対応します。ヘルプ をクリックすると、現在のタブページに対応するセクションのヘルプページが表示されます。

- 作業中の特定の項目を簡潔に説明したインラインヘルプが提供されます。説明は各ページの一番上に表示されます。

インラインヘルプでは、必要に応じ、可能な設定と、受け入れられる値の種類についての説明を表示します。

- ツールのヒントは、すべてのグラフィックイメージとリンクの下に表示されます。ツールのヒントを見るには、マウスをグラフィックイメージ上またはリンク上に置きます。